

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.26 No.8 August 2025

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University



8

CONTENTS

・巻頭言

「世界神話学説」

／井上 昭洋 1

・文脈で読む「身上さとし」(20)

明治 22 年 9 月

／深谷 耕治 2

・英語文献にみる天理教 (11)

『The Gist of Japan』(1)

／尾上 貴行 3

・音のちから—中国古代の人と音楽 (27)

文物が語る音の世界—四絃の琵琶—

／中 純子 4

・ブラジルの宗教的風景 (7)

アンテペラム期の米国系プロテスタン
ト教会による布教活動①

／中西 光一 5

・2025 年度公開教学講座：「元の理」の 学術的研究とその新しい展開を求めて (2)

第 2 講：「元の理」の人種理論・平等
思想

／中西 光一 6

・おやさと研究所ニュース 7

第 376 回研究報告会 (4 月 15 日) /
写真展「天理大学 100 年」第 2 期
ご案内

巻頭言

「世界神話学説」

おやさと研究所長 井上昭洋 Akihiro Inoue

世界中には似通った神話が見られる。よく知られるところでは、洪水によって世界がリセットされる洪水神話、天空神と大地神の交わりによって世界が誕生するタイプの創世神話、死体から作物が生えてくる死体化生神話、双子が国造りなどで重要な役割を果たす双子神話、英雄やトリックスターが火を盗んできて人間社会にもたらす盗火神話などがある。似通った神話が世界中に存在する理由を説明する理論として、大きく分けると伝播主義と構造主義の 2 つの学派がある。前者は、世界中の似通った神話には起源地があり、そこで生まれた神話が人類の移動や交易などによって各地域に伝播していったと捉える。一方、後者は、世界各地に散在する似通った神話は人類の思考様式の普遍性 (psychic unity) によるものと考え。平たく言えば、人間の思考様式は同じなので、神話も似通ってくるというわけである。

従来の伝播主義による説明では、全く接触のなさそうな地域に似通った神話が存在する理由を説明することができなかった。北米大陸やポリネシア島嶼部など、ある程度の文化接触が生じうる地域内であれば伝播主義理論は力を発揮する。だが、あまりにもかけ離れた地域に類似の神話が存在する場合、人間の二項対立 (生と死、自然と文化といった 2 つの対立概念) に基づく思考様式が類似の神話を生み出すとする構造主義理論の方が有利であったと言える。例えば、ギリシア神話にはプロメテウスが火を盗む話があり、ハワイを含むポリネシアの神話にもマウイが火を盗む話があるが、その類似性を説明するのは伝播主義理論には荷が重かったわけだ。

ところで、近年、この伝播主義のパラダイムに属する新たな仮説が打ち出されている。ハーバード大学のマイケル・ヴィッツェルが唱えた Gondwana 型神話群とローラシア型神話群という二大系統に神話を分類する学説である。後藤 (2017) はそれを「世界神話学説」

と名付けている。この学説がこれまでの伝播主義理論と異なるのは、遺伝学や考古学による人類移動に関する近年の研究成果によって仮説を補強している点である。

古いタイプの Gondwana 型神話 (というより神話的思考) はアフリカで誕生したホモ・サピエンスが持っていた神話で、彼らの出アフリカに伴ってオーストラリア大陸や新大陸などに伝播したとされる。その特徴は、宇宙の創造については語らず (世界は初めから存在する)、断片的な物語の集合体である点にある。一方、新しいタイプのローラシア型神話は、ホモ・サピエンスが世界各地に移住した後に西アジアの文明圏で生まれ、そこから各地に伝播したとされる。それは私たちに馴染みのある神話と言ってよく、世界の無からの創造、神々の系譜や世界の秩序化、人類の出現やその後の大洪水など、叙事詩的な語りとなっている。

10 万年ほど前に出アフリカを始めた時点で、ホモ・サピエンスが「物語る」ことのできる言語能力を持ち、その物語を文化として共有し次代に伝えることができていたということをヴィッツェルがどのように証明しているのかは分からない。また、古層の Gondwana 型神話は、叙事詩的なストーリーラインを持つローラシア型神話と並列することのできる「神話」なのかという疑問も生じる。それは神話の前駆的なナラティブ形態であって、オーストラリアのアボリジニ文化などに純粹な形で保持されているが、ローラシア型神話の中にも組み込まれている神話的思考なのではないか。この学説には幾つかの問題点があるように思えるが、ホモ・サピエンスの初期移動の時代にまで遡って人類史の中で神話を捉えようとするスケールの大きな仮説であることには間違いなく、大変興味深い。

〔註〕

(1) 後藤明 (2017) 『世界神話学入門』講談社現代新書。